

JIA 公益法人化元年 社会に伝えるべきこと ————— 西澤 広智

昨年春の叙勲で旭日双光章を受けられたJIA長野県クラブ相談役 出澤潔氏が、信州名匠会の研修会で、「私のひとりごと」と題しお話しをして下さいました。その中で「住まいのありように違和感を覚える」として、形ばかりの空間構成、ファッション化した軽薄な形、環境性能を声高に叫ぶ住まいの群れが、街にあふれていること、エネルギー議論の高まりとともに、建築の省エネ手法に議論が集中して、その数値が住まいの価値観の中で重要な位置を占め、その数値が消費者に対し強い説得力を持つようになったこと、そしてこのような社会的現象が「住まいの持つ数値で計ることができない大切なもの」を見失う結果になることを危惧されていました。

平成25年10月1日に改正省エネルギー基準[住宅部分](平成27年3月31日まで経過措置)、そして平成26年4月から改正省エネルギー基準[非住宅建築部分]が施行されます。

今後、我々は、建築主に建物の省エネルギー措置に関し、定量的に性能を説明することが求められます。これは、一般消費者に解り易く建物の性能・品質を示すことは社会の流れの中では当然の成り行きなのでしょう。しかし、数字を安易に追い求め、経済的な側面から、開口部の少ない、日本の気候風土に反する建物が増えると同時に、日本の伝統的木造建物の文化的側面が損なわれる恐れを感じます。

また、建築基準法に基づく天井脱落対策の規制強化も平成26年4月1日より施行されます。これも最近の大規模地震被害を考えると、非構造部材の安全性を確保することは急務でしょう。

このように、我々は今後益々建築のエンジニアリングの側面が色濃く要求されることと思います。2月22日建築祭における新居千秋氏の基調講演で、大変複雑で創造的な建築が、BIMや、有限要素法による構造解析等により実現されているとの話がありました。創造的で魅力ある空間を造り出すに

は、益々膨大なエネルギーが必要となり、ややもすると、労力を回避した安易な建築、システム化したコピー的建築が増える恐れを感じます。我々は、社会を豊かにする建築に必要な文化性・公益性・芸術性、そして地域性の大切さを社会に発信していかなければならないと思います。

川上代表のもとJIA長野県クラブは、この2年間、公益法人化に伴い会の活動内容を精査し、地域社会に対して職能を活かした活動を目指してきました。川上代表の強い思いで、地域材活性化委員会を立ち上げ、県産材の発掘と利活用の促進を目指し、関連団体、行政機関、教育機関との連携、視察勉強会を続けてまいりました。また、地域材を活用した建築年間200棟完成を目標に掲げましたが、今後活動を継続し目標に向けて成果を上げて行くことが期待されます。

また、本年2月に計画された、保存問題長野大会の成功を目指し、2年に渡り開催準備に力をいれてまいりました。丸山大会委員長を中心に、充実したプログラムが構築されたと思います。残念ながら、大会当日、未曾有の大雪災害に見舞われ、中止となりましたが、今年5月に改めて開催される運びとなります。保存を考えることは、前述したような数値には表れない地域の歴史・文化・人々の思いと言った多様な価値観の発掘・発見に繋がることであり、一般市民に建築の持つ大切な部分を少しでも伝えられる大会となることを目指しましょう。公益社団法人となったJIAそして長野県クラブ各会員が研鑽を積み、益々地域に根を張り、建築を通して社会に貢献できる活動をして行きましょう。



建築祭・文化講演会



卒業設計コンクール・プレゼンの様子



卒業設計コンクール・ギャラリーツアー



卒業設計コンクール受賞者・審査員

建築祭の中で最も楽しみにしているプログラムがこの文化講演会です。第一線で活躍されている著名な建築家の興味深い話をまじかで聞ける機会はなかなかありませんので、建築家の思想にふれ、作品の説明を聞かせていただくことは、大変貴重な経験になります。今年は新居千秋先生の講演ということで、大変興味深いものがありました。

私の記憶の中では、新居先生という比較的ゴシック調の縦と横のラインが協調されるようなどちらかというクラシカルなイメージがありましたが、今回見せていただいた作品は私の粗末なイメージとは全くスケールの違う、大胆でしかも繊細な映像でありました。

「広すぎる街はヒューマンスケールの限界であり、どこに行っても同じような街並みをつくってしまう」「地域にたったひとつの建築をつくる」という言葉に非常に感銘を受けました。作品だけ見るとともワークショップにより住民との対話の中から生まれたものとは思っていませんでしたが、先生の説明を聞き、心地のいい場所であるからこそ人が集まり、地域で生きた空間として住民に愛されていることがわかりました。由利本庄市カダレの有

限要素法解析構造モデルにより作り出された柱とも壁ともつかないコンクリートの面が外部からの光を和らげながら表情が少しずつ変化していく、fissure(亀裂)に光と風が導き入れたとき、この空間がそこに立つ人を力強くそしてやさしく包み込むイメージが感じられました。先生はSomesthetic(身体性)と言われましたが、確かにここに折りなされた不思議で不均質な空間は自然界のある概念なのだろうと思います。私にとっては今まで知りえなかった「身体性」を教えていただいた新居千秋先生に感謝したいと思います。

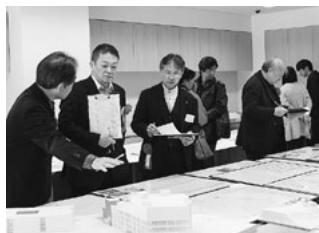


長野県学生卒業設計コンクールを終えて

藤松 幹雄

建築を学ぶ学生の集大成ともいえる第23回長野県学生卒業設計コンクールが松本市美術館で一般公開されました。今年度から美術館より贈られる市民賞が新たに設けられ市民も投票できる事になりました。近年は高校生の作品レベルも上がってきており審査員長の建築家新居千秋先生も深く感心されていました。このような作品をJIAの会員が案内するギャラリーツアーも好評で参加者から分かりやすく様々な角度から話をしてもらい見所も分かりやすかったと感想を頂きました。市民投票も一人に絞るため本気で悩み学生達の話や意見を直接聞くことでより深い思いを知る事が出来たそうです。初代市民賞は信州大学澤崎綾香さんの「コレカタノツクリカタ」と題した松本城西外掘り復元計画が進む向こう20年間の都市空間活用計画を提案したものでした。それは地域に根ざし現

地調査をかさね自身のテーマに深く向き合った作品でもありました。建築の社会的役割を新たな角度から提案したもので、このような作品が市民に選ばれたことは意義あることだと思います。審査員の講評にもありましたがこれで完結せず意見を基に完成度を上げてもらいたいと思います。私たちが訪れた市民も若々しいエネルギーに刺激を受けた一日でありました。



建築祭・コンクール審査総評

片倉 隆幸

審査員長として新居千秋先生をお迎えしての審査が終了しました。高校生の作品も長野工業高校の皆さんはじめ今年もレベルの高い作品が集まりました。

専門学校の上田情報ビジネス専門学校の皆さんも模型と図面表現を楽しみ、自ら目指す創作へと挑戦してきました。

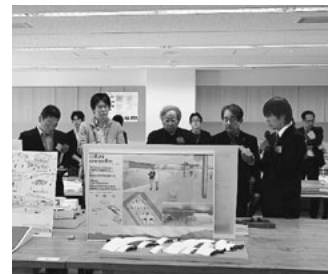
迫力のある模型が並んだ大学生の作品。テクニックのうまさもありますが、自らのかたちを創造していく過程の物語や詩情を表現する図面があるともっと楽しいと思うし説得力もでてきます。

学生たちの夢と希望に溢れた作品を社会に知ってもらう機会をJIAや各教育機関がつかっていかなくてはならないと考えます。そんな意味でも今回市民投票にて松本市美術館館長さんから信州大学の澤崎綾香さんに贈られた市民賞は人まち建築みつめようくらしの場というテーマで行われているくらしの空間セミナーとも関係して大変意義深いことです。

建築はかたちをもってまちの要素を構成するそれだけに、変化成長す

るまちの再生を、素材のもつ寿命が終わるまでまちを楽しめるというまるで舞台監督のような詩情あふれる提案に賞を贈られた市民の皆様にも拍手を送ります。

建築は使う人のことだけでなく周りの環境のこと、そして未来のためにどう考えるかが大切です。学生の皆さんも我々も常に高い美意識を身につける努力をしていきたいものです。



任期を終えて

任期を終えて、そしてこれから

総務委員長 林 隆

2期4年にわたり総務委員会に携わらせていただきました。正会員・協力会員の皆様には委員会活動にご協力をいただきまして、また川上代表と総務委員会担当の山口副代表との連携のもとで、庶務を担ってくれた野口総務副委員長、会の空気を察し先読みをする事務局の佐藤さん、毎回深夜まで続く会議にご出席いただいた総務委員の皆様方、本当にありがとうございました。

総会・幹事会・総務委員会の運営を中心に、総務全般に関わる内向けの活動を続けてきました。年間を通じての各行事への参加率低迷は、総務委員会として創造性に欠けていたからではないかと反省しています。今後内容を凝縮し

て開催数を検討することも必要かと感じています。また自分の経験からはじめて委員長になり総務委員会に出席した時、地域会の真の姿が見えてきたことを思い出します。ということは、総務委員会自体がもっと開かれた会になれば何か得られるきっかけになるかもしれません。

一般市民の皆様、そして全国の地域会の皆様、JIA長野県クラブの事務局は長野市にあり佐藤さんが常勤しています。美味しい珈琲と共に相談も承りますのでぜひお気軽にお立ち寄りください。

広報委員会の活動を振り返る。

広報出版委員長 君島 弘章

川上会長から、広報出版の委員長をしてほしいといわれ、無我夢中で任期二年が過ぎました。私の広報委員長としての活動は、会員の作品発表の場である出版の存続に我が身を削って取り組んだ二年であったとおもいます。動き出してからわかったことですが、出版の障害になる内外の抵抗勢力がこれほど大きなものだとは不覚にも知りませんでした。(笑)この障害物競走のような経験は、私の中で、この会を見直す上でとても勉強になりました。

建築家協会の会員である以上、プロフェッション(專業)としての建築家という立場を明確に社会に示していくうえでも、会員個々の優れた作品の発表の場は重要なひとつだと感じております。そうしたことから出版事業の火は大切に死守すべきだと考えておりましたが、会の公益法人化により、あきらめざるを得ないことになり残念でした。

しかし、外部の出版社による建築家の作品情報誌が新たに創刊されることとなり、会員の優れた作品が掲載されるという展望ができ、いまは嬉しい気持ちで

いっぱいです。

今年から建築家協会が公益法人という立場になり、私のように旧家協会の専門の作家性に魅力を感じて入会したのものにとっては、今の建築家協会の姿には複雑な気持ちであるというのが本心です。時代とともに会が外部に門を開放していくのは結構ですが、クライアントの利益を守る専門性や何モノにも縛られない中立性が脅かされるとしたらプロフェッションの根幹にかかわる問題だと思われからです。今後、建築家協会が時代に即して変化したとしても、その輝きが失われないことを祈っております。

JIA長野県クラブの仲間たちの多くは、ふるさとの環境に責任をもって応えようとしている一騎当千のつわもの達だと思います。

今後の会の活動、会員の地道な活動がひろく一般の方々理解されますことを心から期待したいと思います。

任期を終えて

会員委員長 長島 三夫

正直言ってこの日を待ち望んでおりました。二年前にこの役を川上代表の熱意に負けて受けてしまったのが始まり。賛助会と懇親を深める事が目標と勘違いをし、反省をもせずに2年が過ぎようとしております。

正会員と賛助会員は車の両輪という理念を元に、何が必要かと考えてきました。やはり、仕事上の協力として実益となる土壌を作らねばならない事におつかりますが、JIA長野県クラブにその場を求めている会員は少ないということが実感でした。求めるものは高度な建築活動だと思います。

今年度は各委員会で多くの企画が展開されました。その担当者は参加人員

の確保にも大変なご苦勞があったかと思いますが、会員に向けて魅力ある企画を続ける事、その企画を通じてクラブ全体の活力が湧いてくると信じております。

代表、副代表そして各委員長、諸先輩に助けられ、なんとか終われそうと安堵しております。ご協力ありがとうございました。この二年間、賛助会の方や多くの人との出会いがありました。貴重な時間を与えてくれた川上代表はじめクラブの方々に感謝!感謝!感謝!です。

任期を終えて

事業委員長 尾日向辰文

第7回、8回と2回の建築祭を開催しました。事業委員会の皆様と、お手伝いいただいた会員の皆様協力、大成功に終わらせることが出来ました。ありがとうございました。

松本市美術館での開催は今回で6年目です。昨年度は、会場を固定するのはいかがなものかと、県内各地の施設を検討しましたが、なかなか他に良い会場が無く、それどころか、松本市美術館での開催も危ぶまれる事態になりました。美術館が、これまでの共同事業の意義に疑問を呈したのです。

そこで、担当の学芸員と協力し、市民に開いた事業とすべく、運営方法を探りました。折しも、公益社団法人を選択して一段と公益性を高めたいJIAの方向と重なりました。暗中模索の中で企画した卒業設計コンクールの市民賞は、大きな前進だったと思います。

松本市美術館では「暮らしの中にある美」をテーマにした事業展開の中で「建築」を重要な分野と位置づけるなど、今後も共同開催に向けて期待される所です。

二年間のまちづくり委員会の活動を終えて

まちづくり委員長 山田健一郎

川上代表から、まちづくり委員長を仰せつかった際、ひとつの命題が渡された。「まちづくりだけでなく、もう少し広い視点で景観について考える委員会として活動してほしい。」

昨年は、アーキテツクガーデンプログラムに合わせた、シルク産業のまち・上田のまち歩きウォッチング。農村景観を考えるための、木曾郡木祖村のウォッチング。今年に入って、農村・廃村・伝統的な民家を学ぶ為、飯田市大平宿での体験合宿。秋には、景観シンポジウムとして、会員委員会主催・柳澤孝彦氏の上田市民交流館の講演会に合わせた、市民交流館を巡る上田の町並みや都市景観に関する質疑の応答。年末には、蔵の街、須坂のウォッチング。それなりに活動してきたが、まちづくり、景観を考える場を十分に提供できたかという、それなり

にとしか言いようがない。

それは、まちづくり、景観づくりは、地域の市民や行政と共になって、悩みや目標を共有しながら作り上げていくべきもので、建築士会や建築士事務所協会の各支部が、地域と密接に取り組む活動であったり、JIA長野県クラブ会員それぞれの、地域や自治体との協働といった、より具体的な活動の中でしか果たせないものだからである。

JIA長野県クラブとして、地域と直接に関わることは難しく、まちづくりや景観づくりにより大局的なビジョンや視点を投げかける、というのが我々の役目になるのだろうか。それに答えを出せない2年間だった。

JIA長野県クラブ 地域材活性化委員会 2年間の活動報告

地域材活性化委員会 新井 優

平成24年度より「地域材」を切り口に「川上から川下へ」を合い言葉にして、ものづくりの原点を見つめ直し、建築家としての社会貢献を進めて行こうとする川上会長の旗振りの元、二年間にわたり地域材活性化委員会を進めてきました。

まず、身近で有りながら実は私たちが良く分かっていなかった山の現状を見に行こうと、地域材フィールドワークを根羽(南信)、木曾、北信、東信、中信と県下各地を訪れ、実際に地域材に係わる人々と会う機会を始めました。特に、トータル林業として長野県でも先進的な林業を進める根羽村。単独的にも使える製品開発を進めている木曾。熟意あふれる製材所のがんばりで地域材利用が進む東信、北信。マツクイムシ被害にさらされる安曇野赤松の現状と高度な加工技術を擁し赤松利用に取り組む中信。そして、実際の建築を体験する機会として木造フィールドワークを平成25年11月15日に行い、南信地域の木造建築を訪ね、地域材利用が進んでいる現状を確認しました。

また、平成25年12月3日には、課題の安曇野赤松を何とかしようと、被害木や

健全木の利用拡大を模索する特別企画を行いました。

平成25年度末には、各事務所の木材利用量調査を行い、アンケート回収16社・地域材使用量延べ1600㎡、平均100㎡/1社としてJIA長野県クラブ会員数を掛けると、川上会長数値目標6000㎡となり手前味噌な達成感を得ました。また、地域材に係わる協力会員に基本的な木材規格調査表を作成頂き、2年間の活動報告と合わせて分かりやすい資料を作成する予定です。

私たちが環境とコンタクトする一番近い部分は食と呼吸です。地産地消による安心安全は食の部分では当たり前になっていますが、家づくりに於いて地域材利用の意識は低いままで。これは家造りに係わる私たちの「運動」として取り組んで行くしかありません。単面のみには捕らわれず、地域材を使う意義をしっかりと持ち続け、山と里をつなぐ役目を私たちが担う必要があります。その為のデザイン力と社会への訴求力を是非地域材利用に活かして頂きたいと思っております。

JIA卒業設計コンクール 受賞コメント



上田情報ビジネス専門学校 渡邊 良平

この度は、銀賞をいただき本当にありがとうございます。

問題をどうしたら改善できるのか、答えがなかなか出せず苦戦しましたが、先生方、友達、親のお陰で自分なりの答えを見つけ出す事ができました。感謝の気持ちでいっぱいです。

今回考えたのは、みなさんにこの社会が魅力的だと思えるようになってもらいたいという思いを込めた作品です。身近にある素敵な場所がさらに建築によって素敵なものになり、自分にとってなくてはならない大切な場所となってほしいです。このような場所を増やし、世の中が、豊かになってくれたら嬉しいです。

プレゼンでは自分の考えた事を短時間で伝えるのは難しいと感じましたが、質疑応答なども含み楽しめたと思います。ひとつを強いアイデアにするなど考え方のアドバイス、重要な所を強く訴えるプレゼンのコツなどたくさんの方の指導をいただき、様々な事を学ばせていただきました。

これまで以上に勉学に励み、日々精進していきたいと思います。



上田情報ビジネス専門学校 吉田 和熙

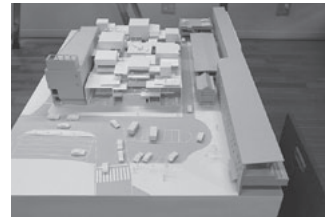
この度は、学生設計コンクール専門学校の部で銀賞にご選定頂き誠にありがとうございます。

私にとって、卒業設計はウエジヨビで学んできた2年間の集大成です。それをこのような形で評価してもらうことができ大変光栄に感じています。

今回提案した建物は、現在上田市が建設している交流文化センターが形だけで終わらないように、市民の文化に対する心を育てる。これから、先の未来まで市民と交流文化センターがよりよい関係として発展していく。そんなイメージで設計しました。この提案により、地域の方々の文化への関心を高めてくれれば幸いです。

当日は少ない時間の中で、建築家の先生方から「自分の事をどのように説明するか、作品を表現するかが重要」といった貴重なアドバイスも頂くことができ、大変勉強になりました。

この受賞をきっかけに、更に地域にあったより良い建築を考えていこうと思います。評価して頂いた方々には心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。



信州大学 北沢 伸章

このたびはJIA長野県クラブ第23回長野県学生卒業設計コンクールにて、金賞という評価をいただきましたことを大変嬉しく思っています。審査員の先生方をはじめ、大会運営に携わって頂いた皆様に、心より感謝申し上げます。

今回設計した「美術館と地方都市のこれから」では、上田駅前の現在空地となっている敷地に、美術館と、児童館を主とした様々な付属施設で構成しました。これは街なか居住によって地方都市の中心市街地に居住人口が増えた際において、公共施設の集積と、文化や芸術によるコミュニティ形成を図ったためです。美術館以外を目的に訪れた人々が自然と展示品に興味を抱くように設計することで、より身近な「まちに開かれた美術館」となり、単なる人口増加や利便性を求めるだけではなく、これからの地方都市での暮らしがさらに豊かに、楽しくなることを願って設計しました。

まだまだ未熟な者ではありますが、卒業設計を通して考えたように、いつの日か地元の長野県を建築家としての先輩である皆様と一緒に、いっそう活気に溢れた地域にしていきたいと思っております。

拙文となりましたが、最後までお読みいただきありがとうございます。ありがとうございました。



第23回学生卒業設計コンクール 審査結果

高校の部

- | | | |
|------------|--|--|
| 金賞 | 長野県長野工業高等学校 トイ イズミ 戸井 泉 | 長野駅前再開発計画(案) まちなかリンクプラザ「MONZEN」 |
| | 長野県長野工業高等学校 サカイ ヒデアキ 酒井 秀明 | 賑わう商店と集合住宅 ー 長野駅東口に活気と繋がりをー |
| 銅賞 | 長野県長野工業高等学校 サワダ ショウジ 澤田 祥司 | 長野駅前再開発計画(案) 市民交流センター「メルシー」 |
| 奨励賞 | 長野県飯田OIDE長姫高等学校 ナカモト ユタカ 中本 豊 | 「油屋」 ～飯田城跡に建つ「ジブリワールド」～ |
| | 長野県長野工業高等学校 タカノ カエデ 高野 楓 | 長野駅前再開発計画(案) 現代美術館 LUZ |
| | 長野県長野工業高等学校 ツキオカ ナオ 月岡 直 | ショッピングセンター「フォーカス」 ー 次の店は未知数なショッピングセンターー |

大学の部

- | | | |
|-----------|-----------------------------------|---------------|
| 金賞 | 信州大学 キタザワ ノブアキ 北沢 伸章 | 美術館と地方都市のこれから |
| | 信州大学 サワザキ アヤカ 澤崎 綾香 | コワレカタノツクリカタ |
| 銅賞 | 信州大学 ナカマ コウカ 仲摩 裕加 | 境界線の望楼 |

専門学校の部

- | | | |
|-----------|--|--------------------------------|
| 銀賞 | 上田情報ビジネス専門学校 ワタナベ リョウヘイ 渡邊 良平 | わたしの大切な場所 ー 川と共に素敵な時間をー |
| | 上田情報ビジネス専門学校 ヨシダ カズキ 吉田 和熙 | culture connection 人と文化を繋げる |
| 銅賞 | 上田情報ビジネス専門学校 トクナガ コウキ 徳永 勇輝 | コドモノスミカ ～共有空間の中の地域社会～ |
| | 上田情報ビジネス専門学校 ツチヤ シュウジ 土屋 秀司 | 育てよう ～生きがいを未来へ～ |

| | | | |
|------------|------|----------------|-------|
| 審査員 | 審査員長 | (株)新居千秋都市建築設計 | 新居 千秋 |
| | 審査員 | JIA関東甲信越支部 幹事長 | 高階 澄人 |
| | | JIA群馬地域会 代表幹事 | 水上 勝之 |
| | | JIA新潟地域会 | 小松 康之 |
| | | JIA長野県クラブ 副代表 | 片倉 隆幸 |

第23回
保存問題
長野大会
in 諏訪・岡谷

REVENGE

5.24 sat - 5.25 sun

「保存は未来への創造である」

近代産業の衰退の影響と保存建築物の活用

第23回

保存問題長野大会

Revenge

保存問題長野大会特別委員会

委員長

丸山幸弘

2014

2.15 sat - 2.16 sun

2.15 sat 5.24 sat

2.16 sun 5.25 sun

I. 岡谷市周辺の近代化遺産視察①

▶丸山タンク ▶株式会社倉上高倉庫

▶旧山一林垣製糸事務所 ▶旧林家住宅

II. 諏訪市周辺の近代化遺産視察②

▶片倉邸

III. 懇親会：かたくら諏訪湖ホテル

I. 岡谷市内の近代化遺産見学③

▶旧片倉組事務所 ▶初代片倉兼太郎生家

▶旧岡谷市役所庁舎

II. 基調講演：藤森昭信（会場：タカノブラザルイール1階の方、3時開演）
（建築史家・建築家／工学院大学教授、東京大学名誉教授）

III. シンポジウム：「保存は未来への創造である」

主催 公益社団法人日本建築家協会（JIA）

関東甲信越支部保存問題委員会、長野地域会

後援 岡谷市・岡谷市教育委員会、片倉工業株式会社、財団法人片倉館

かたくら諏訪湖ホテル、信濃毎日新聞社、新設新聞社、長野日報社

株式会社岡谷市民新聞社 信州・市民新聞グループ（7社）

一般社団法人長野県建築士会、一般社団法人長野県建築士事務所協会

問合せ JIA 関東甲信越支部事務局 tel 03-3408-8291



2月15日・16日の第23回 保存問題長野大会は、予想外の大雪で中止になりました。会員、大会関係者には、大変に御迷惑をかけ、申し訳ありませんでした。

14日の前日、午後11:30頃まで、JIA関東甲信越支部の保存問題委員会委員長の安達文宏さん、委員の吉川さんと連絡を取り合い、開催する予定でした。しかし、一夜にしてあの大雪です。15日の午前6:00頃から再度連絡をとり、中止を決断しました。JR中央線、中央自動車道は既に不通の状態でしたので、関東甲信越方面の参加者は動きようも無い状況だったので、中止の連絡は少し遅れても良い。と判断し、豪雪でも活動してしまう長野地域会、新潟地域会、群馬地域会、栃木地域会の会員への連絡を優先しました。当日、参加者（約120名）の方に連絡を取り終えたのが昼頃だったと思います。そして16日、今度はシンポジウムに参加する一般の方への中止連絡をどうするのか？岡谷・諏訪地域の一般の方への連絡。長野日報、市民新聞へは連絡をし、大会中止の記事を掲載していただきました。信濃毎日新聞社は連絡がうまく取れず、記事にはなりません。記事だけでは情報を見落とす方もいるのではないかと、午前中

に念のためシンポジウム会場に行って待っていました。すると岡谷市民の方、2名が雪の中いらっしゃいました。丁重に中止をお伝えし、お詫び申し上げます。その日の午後には、見学場所へのお詫び廻りをし、2日間が過ぎました。後日から諸官庁へお詫び廻りをしました。

それ以来、JIA会員の方、建物見学を予定していた所有者の方などから再開の問い合わせが相次ぎ、皆様の保存大会への期待と思いを感じました。

そこで、リベンジの段取りを取り始めました。ホテルの予約、会場の予約、基調講演の藤森先生のスケジュール等々、調整は難航しました。しかし、JIA関東甲信越支部の役員の方、赤羽副支部長、保存問題委員会の方、長野地域会川上代表、地域会執行部の方などの協力で5月24日（土曜日）・25日（日曜日）に開催することになりました。

大会まで約2カ月で仕切り直さなければなりません。2月大会の準備をする際にも、皆様に絶大な協力をして頂きましたが、5月の大会は、それ以上にご協力をお願いする次第です。どうか、よろしくお願ひいたします。

賛助会だより

人と環境に優しく、森と共生する住まい造りを提案しています。

征矢野建材(株) 星川 嘉諒

今年3月上旬にプレカット工場事務所棟1階打ち合わせコーナーをリニューアルし、自由にご利用いただけるカフェ&ショールームをオープンしました。弊社の工場で製造している信州ヒノキや信州アカマツを使った内装材や家具を配置し、皆様のご来場をお待ちしております。お施主様との打ち合わせや、県産材や、地域材は何が有るのかといったことから、プレカット工場見学時の休憩場所として、カット見本だけではなく現実を見

ていただく事で分かりやすく、利用しやすい提案をしてまいります。これらをご利用いただく事により地域の活性化につながればと考えております。15名様前後のミーティングにもご利用いただけます。工場事務所にてご予約承りますのでぜひご利用ください。

ホームページ:www.soyano.com

松本市今井野尻5031 TEL:0263-50-3939

担当 あわづはら・北野・鍋井

松本市笹賀7116-1 TEL:0263-86-0250 e-mail:hoshikawa@soyano.com

地震に強い固定床のご提案

有限会社 泰成電機工業 新井由美子

万協スラブブロックシステムは「置き床」ではなく「固定床」のため、地震時の床の突き上げ、横揺れに対して強い構造をもっております。業界で唯一、金属ボルト、ナットを自社で製造し、パイプボルトのねじ成型は万協が培った技術であり、自社設計による自動生産ラインも業界で最新・最大の規模となっております。確かな品質確保、生産管理を可能にしているのが「万協」のも

のづくりです。

乾式二重床のパイオニアである万協フローアはいつも「これから」と「もっと多くの方々に」を合言葉に最先端の商業ビル・展示場・公共施設や安全を厳しく求められる学校・幼稚園・介護施設、そして医療機関など生活に密着した生活シーンで貢献してまいります。

駒ヶ根市飯坂2-8-34 TEL:0265-83-1138 FAX:0265-83-9663

健やかな暮らしをお届けします

信越ビー・アイ・ピー株式会社 小林 義孝

断熱気密工事 速くきれいに適正価格で確実な施工で性能向上、適材適所のご提案が出来ます。

再生可能エネルギーの導入 太陽集熱システムにて給湯・暖房の6割が太陽でまかなう事が可能です。

換気 第3種から第1種熱交換型換気システムまで設計施工。

太陽光発電システムにてゼロエネルギー化の実現。

冷暖房 冷温水を使った放射冷暖房システム設計施工。

これらをバランス良く計画するトータルシステムで最良のご提案が出来ます。

開口部 木製スウェーデン玄関ドア、三層ガラスサッシ、エクセルシャノンウインドー販売・結露の無い窓をご提案します。

〒381-0012 長野県長野市柳原2550-15 TEL:026-295-6155 FAX:026-295-6122

トピックス TOPIX

初の試みとして、会場を訪れた一般の方の投票による「市民賞」を設け、今回、信州大学の澤崎綾香さんの作品が選ばれました。澤崎さんは当コンクールの「大学の部」でも銀賞を受賞されました。

W受賞おめでとうございます。また、ご協力くださった松本市美術館様に感謝申し上げます。



澤崎の作品「コワレカタノツクリカタ」



松本市美術館館長と信州大学の澤崎さん

開催したイベント

- 2月9日(日)・・・くらしの空間セミナー
- 2月22日(土)・・・建築祭(文化講演会)
- 2月23日(日)・・・建築祭(長野県学生卒業設計コンクール)

今後の行事予定

- 4月8日(火)・・・第4回幹事会
- 4月19日(土)・・・通常総会・懇親会
- 5月24日(土)～25日(日)・・・第23回保存問題長野大会

編集 後記

未曾有の大雪に見舞われ、2月に予定されていた保存問題長野大会が中止となってしまい大変残念でした。今号にも載せていますように、5月に「リベンジ」が決まり関係者の方々は改めて準備に追われることとなりそうですが、きっと有意義な大会になることと思います。楽しみにしています。

さて、来年度からJIA長野県クラブは新体制にて再出発となります。私もこの2年間、会報「建築家通信」の編集担当を務めて参りましたが、いつも力不足・時間不足を感じながらの編集作業でした。次の担当者には「新しい切り口」を期待しつつ、私の役目を終えたいと思います。最後に、原稿を寄稿していただいた皆様、事務局の佐藤さん、アックグラフィックスの高山さん、お世話になりました。本当にありがとうございました。…… 下崎明久

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。



J I A
公益社団法人日本建築家協会
The Japan Institute of Architects

編集人/下崎明久 発行所/JIA長野県クラブ 長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内 TEL:026-232-3897 FAX:026-232-5303
発行人/川上恵一 URL <http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/> E-mail jia-naga@jeans.ocn.ne.jp